

いぶり

平成30年北海道胆振東部地震の被災地に土砂災害専門家を派遣

ゆうふつぐんあつまちょう

●北海道勇払郡厚真町で発生した土砂崩れに関して、北海道の要請により、二次災害防止のため、地震当日に土砂災害専門家を派遣。北海道、厚真町などの自治体関係者に調査結果を説明するとともに今後の土砂災害に対する警戒避難等について助言を行った。

派遣期間：9月6日～9月10日

派遣者：国立開発法人土木研究所土砂管理研究グループ

上席研究員 石井靖雄

国土技術政策総合研究所土砂災害研究部

室長

野呂智之

【土砂災害専門家コメント】

9月7時点

- (1) 斜面表層の火山灰層が立木を伴って移動した表層崩壊が多発。表層崩壊は、厚真町役場より上流約10 km四方のエリアで多発していた(図-1)。
- (2) 崩土は、斜面下方の平坦地や斜面上に堆積している箇所が多いほか、複数箇所からの崩土が谷底に堆積し、河道を閉塞している事例が見られる。
- (3) 今後の余震・降雨で、①崩壊した斜面の周辺への崩壊の拡大、②隣接斜面の崩壊の可能性がある。また、③斜面下方に堆積する崩土は、今後の降雨により徐々に流出し、下流河川の流下断面の阻害による災害につながる可能性がある。
- (4) 当面は、少ない雨量でも早めの避難を呼びかけるなど安全側にたった対応が必要。余震・降雨後の崩壊発生状況を確認しながら避難基準を徐々に引き上げるなど段階的な対応が必要。



9月7日 地上からの調査



9月7日 厚真町役場での説明



図-1 上空からの目視による厚真町の表層崩壊多発範囲 (平成30年9月6日ヘリ調査)

土砂災害専門家による河道閉塞の現地調査結果

9月9日時点

【土砂災害専門家】北海道大学 小山内 信智 特任教授

土木研究所土砂管理研究グループ 上席研究員 石井 靖雄

国土技術政策総合研究所土砂災害研究部 室長 野呂 智之

9月8日 ヘリ調査

9月9日 現地調査

- ・厚真川水系日高幌内川の右岸側の長さ約 1,000m、幅約 500mにわたる尾根部が、地震により約 500m滑動し、河川を閉塞させた。（数字については今後の調査により変更となる可能性があります）
- ・地震から3日が経過し若干の降雨を記録したが、河道閉塞部の上流に顕著な湛水は確認されていない。このため直ちに下流に災害を発生させる状況にはないが、今後、降雨後の水位変化、閉塞土砂の状況を確認しながら、対策の内容を迅速に検討していく必要がある。
- ・当面の監視体制としては、監視カメラや水位計の設置が考えられる。

※上記の調査結果を、北海道と北海道開発局に説明するとともに、今後の対策について助言した。



閉塞土砂の上から下流を望む



最下流の堆積部から下流を望む